

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-192496

(43)Date of publication of application : 12.07.1994

(51)Int.Cl.

C08L 23/10
C08K 5/20

(21)Application number : 05-269840

(71)Applicant : NEW JAPAN CHEM CO LTD

(22)Date of filing : 30.09.1993

(72)Inventor : MIZOGUCHI KAZUAKI
YOSHIMURA MASAFUMI
IKEDA NAOKI
SADAMITSU KIYOSHI
KAWAHARA YASUYUKI
YANA YOSHITAKA
KITAGAWA HIROSHI

(30)Priority

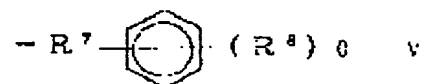
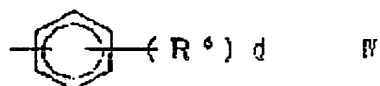
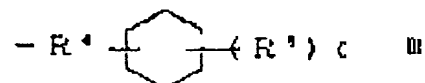
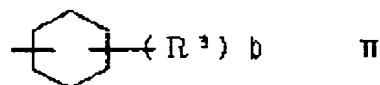
Priority number : 04308233 Priority date : 22.10.1992 Priority country : JP

(54) POLYPROPYLENE RESIN COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To improve the crystallizability and rigidity of a PP resin by adding a specified amide compound thereto.

CONSTITUTION: 100 pts.wt. PP resin is mixed with 0.001-5 pts.wt. amide compound of formula I (wherein R1 is an aliphatic, alicyclic or aromatic polycarboxylic acid residue; R2 is alkyl, alkenyl, cycloalkyl, cycloalkenyl, phenyl, naphthyl or a group of any one of formulas II to V; R3, R5, R6 and R8 are each alkyl, alkenyl, alkoxy, cycloalkyl, phenyl or halogen; R4 and R7 are each linear or branched alkylene; a is 3 to 6; b and d are each 1 to 5; c and e are each 0 to 5; and a R2s, b R3s, c R6s and e R8s are each an independent group).



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

28.09.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

• [Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

• [Date of final disposal for application]

[Patent number] 3401868

[Date of registration] 28.02.2003

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

-

~

-

-

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-192496

(43)公開日 平成6年(1994)7月12日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 8 L 23/10	K E W	7107-4 J		
C 0 8 K 5/20				

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 10 頁)

(21)出願番号	特願平5-269840	(71)出願人	000191250 新日本理化学株式会社 京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地
(22)出願日	平成5年(1993)9月30日	(72)発明者	堺口 和昭 京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新 日本理化学株式会社内
(31)優先権主張番号	特願平4-308233	(72)発明者	吉村 雅史 京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新 日本理化学株式会社内
(32)優先日	平4(1992)10月22日	(72)発明者	池田 直紀 京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新 日本理化学株式会社内
(33)優先権主張国	日本 (J P)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ポリプロピレン系樹脂組成物

(57)【要約】

【目的】 結晶性及び剛性に優れたポリプロピレン系樹脂組成物を提供する。

【構成】 ポリプロピレン系樹脂に対し、樹脂改質剤としてポリ (n = 3 ~ 6) カルボン酸又はその無水物とモノアミンから得られるアミド系化合物を配合する。

(2)

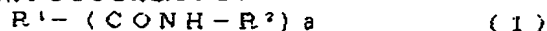
特開平6-192496

1

2

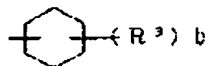
【特許請求の範囲】

【請求項1】 一般式(1)で示される1種若しくは2種以上のアミド系化合物を含有することを特徴とするポ*

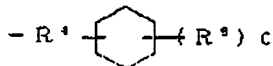


【式中、 R^1 は脂肪族ポリカルボン酸残基、脂環族ポリカルボン酸残基又は芳香族ポリカルボン酸残基を表す。 R^2 はアルキル基、アルケニル基、シクロアルキル基、シクロアルケニル基、フェニル基、ナフチル基。

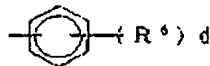
【化2】



【化3】

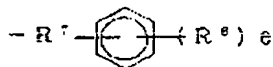


【化4】



又は

【化5】



で示される基を表す。 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 は夫々、アルキル基、アルケニル基、アルコキシル基、シクロアルキル基、フェニル基又はハロゲン原子を表す。 R^7 、 R^8 は夫々、直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。 a は3~6の整数を示す。 b 、 d は夫々1~5の整数を示す。 c 、 e は夫々0~5の整数を示す。尚、 a 個の R^1 、 b 個の R^3 、 c 個の R^5 、 d 個の R^6 、 e 個の R^8 は夫々独立した基である。】

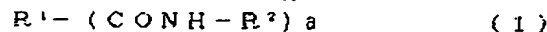
【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、結晶性及び剛性に優れたポリプロピレン系樹脂組成物に関する。

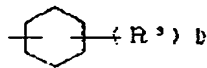
【0002】

※40



【式中、 R^1 は脂肪族ポリカルボン酸残基、脂環族ポリカルボン酸残基又は芳香族ポリカルボン酸残基を表す。 R^2 はアルキル基、アルケニル基、シクロアルキル基、シクロアルケニル基、フェニル基、ナフチル基。

【化7】



50

*ポリプロピレン系樹脂組成物。

【化1】

(1)

※【従来の技術】 ポリプロピレン系重合体は、成形性、機械特性、電気特性等が優れているために、フィルム成形、シート成形、ブロー成形、射出成形等の素材として、様々な分野に応用されている。

【0003】 しかし、当該樹脂は、一般的には優れた物性を有しているものの、結晶性及び剛性が低いという問題点があり、ある種の用途によっては、その樹脂本来の優れた性能が十分に引き出せないために、その適用が制限されたものとなっているのが現状であった。

【0004】 今までにポリプロピレン系重合体の結晶性及び剛性を改良する目的で種々の試みが行われてきた。例えば、カルボン酸の金属塩、芳香族カルボン酸の金属塩、芳香族リン酸の金属塩、脂肪族ジカルボン酸のアミン塩や金属塩、ソルビトール誘導体等の樹脂改質剤を添加する方法が知られている。

【0005】 しかし、これらの化合物は、改質効果が不十分であったり、樹脂改質剤そのものの耐熱性が低く、更には樹脂の劣化を促進する等の問題点を有しており、尚、改善の余地が認められる。

【0006】

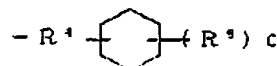
【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上記の樹脂改質剤の問題点を解消し、結晶性及び剛性のより向上した新規有用なポリプロピレン系樹脂組成物を提案することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、かかる現状に鑑み、上記課題を解決すべく鋭意検討を行った結果、ポリプロピレン系樹脂に対し、特定の構造を有するアミド系化合物を配合することにより所期の効果が得られることを見だし、かかる知見に基づいて本発明を完成するに至った。

【0008】 即ち、本発明に係るポリプロピレン系樹脂組成物は、一般式(1)で示される1種若しくは2種以上のアミド系化合物を含有することを特徴とする。

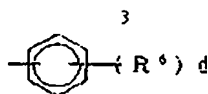
【化6】



【化9】

(3)

特開平6-192496



又は

【化10】



で示される基を表す。R¹、R²、R³、R⁴は夫々、アルキル基、アルケニル基、アルコキシル基、シクロアルキル基、フェニル基又はハロゲン原子を表す。R⁵、R⁶は夫々、直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。aは3～6の整数を示す。b、dは夫々1～5の整数を示す。c、eは夫々0～5の整数を示す。尚、a個のR¹、b個のR²、c個のR³、d個のR⁴、e個のR⁵は夫々独立した基である。]

【0009】一般式(1)で示されるアミド系化合物は、所定のポリカルボン酸又はその酸無水物と1種若しくは2種以上のモノアミンとを従来公知の方法に従ってアミド化することにより容易に調製することができる。

【0010】本発明に係るポリカルボン酸としては、脂肪族ポリカルボン酸（好ましくは、炭素数3～30の飽和又は不飽和の脂肪族ポリカルボン酸）、脂環族ポリカルボン酸及び芳香族ポリカルボン酸が挙げられる。かかるポリカルボン酸は、置換基として1個若しくは2個以上の水酸基、アルキル基、アルケニル基及び／又はアセトキシ基を有していても良い。

【0011】脂肪族ポリカルボン酸としては、クエン酸、メタントリカルボン酸、エタントリカルボン酸、プロパントリカルボン酸、プロペントリカルボン酸、カンホロン酸、ブタントリカルボン酸、ペンタントリカルボン酸、ヘキサントリカルボン酸、ヘプタントリカルボン酸、オクタントリカルボン酸、ノナントリカルボン酸、デカントリカルボン酸、アセトキシプロパントリカルボン酸、アセトキシペンタントリカルボン酸、アセトキシヘプタントリカルボン酸、エタントトラカルボン酸、プロパントトラカルボン酸、ブタントトラカルボン酸、ペンタントトラカルボン酸、ドデカントトラカルボン酸、ペンタペンタカルボン酸、アセトキシペンタペンタカルボン酸、ペンタヘキサカルボン酸、テトラデカンヘキサカルボン酸、エチレンジアミン四酢酸、ニトリロ三酢酸、エチレングリコールビス（β-アミノエチルエーテル）N、N、N'、N'-四酢酸、ジエチレントリアミン五酢酸、N-ヒドロキシエチルエチレンジアミン-N、N'、N'-三酢酸、1，3-ジアミノプロパン-2-オール-N、N、N'、N'-四酢酸、1，2-ジアミノプロパン-N、N、N'、N'-四酢酸、トリエチレントラミン六酢酸、ニトリロ三プロピオン酸、1，6-ヘキサメチレンジアミン四酢酸、N-（2-カルボキシエチル）イミノ二酢酸等が例示される。

【0012】脂環族ポリカルボン酸としては、シクロヘキサントリカルボン酸、カンホ酸、トランス-カンボトリカルボン酸、シクロブタンテトラカルボン酸、シクロペンタンテトラカルボン酸、シクロヘキサントトラカルボン酸、テトラヒドロフランテトラカルボン酸、3，4-ジカルボキシ-1，2，3，4-テトラヒドロ-1-ナフタレンコハク酸（以下「TDA」と略記する。）及びその低級アルキル置換体（例えば、1位、5位、6位又は7位のメチル置換体、特に1-メチル置換体が推奨される。）、5-（コハク酸）-3-メチル-3-シクロヘキセン-1，2-ジカルボン酸（以下「SMSD」と略記する。）、ビスシクロ〔2，2，2〕オクタ-7-エン-2，3，5，6-テトラカルボン酸、シクロヘキサヘキサカルボン酸、5，6，9，10-テトラカルボキシトリシクロ（6，2，2，0^{1,2}）-ドデカ-2，11-ジエン（以下「PDDA」と略記する。）及びその低級アルキル置換体（例えば、3位、8位、11位又は12位のメチル置換体、特に3-メチル置換体が推奨される。）、1，2-シクロヘキサジアミン四酢酸、2，3，5-トリカルボキシシクロペンチル酢酸、6-メチル-4-シクロヘキセン-1，2，3-トリカルボン酸、3，5，6-トリカルボキシノルボネン-2-酢酸、チオビス（ノルボネン-2，3-ジカルボン酸）、ビスシクロ〔4，2，0〕オクタン-3，4，7，8-テトラカルボン酸、1，1'-ビスシクロプロパン-2，2'，3，3'-テトラカルボン酸、1，2-ビス（2，3-ジメチル-2，3-ジカルボキシシクロブチル）エタン、ピラジン-2，3，5，6-テトラカルボン酸、トリシクロ〔4，2，2，0^{1,2}〕デカン-9-エン-3，4，7，8-テトラカルボン酸、2，3，4，5，6，7，12，13-オクタヒドロフェナントレン-3，4，5，6-テトラカルボン酸、1，3，5-トリメチル-1，3，5-シクロヘキサントリカルボン酸等が例示される。

【0013】芳香族ポリカルボン酸としては、ベンゼントリカルボン酸、ベンゼンテトラカルボン酸、ベンゾフェノンテトラカルボン酸、ビフェニルテトラカルボン酸、ビフェニルエーテルテトラカルボン酸、ジフェニルスルホンテトラカルボン酸、ジフェニルメタンテトラカルボン酸、ヘリレントラカルボン酸、ナフタレントラカルボン酸、エチレングリコールトリメリット酸ジエステル（以下「TMEG」と略記する。）、ベンゼンヘキサカルボン酸、グリセリントリメリット酸トリエステル（以下「TMTA」と略記する。）、4，4'-ジナフタル酸、ベンジジン-3，3'-ジカルボキシ-N，N'-四酢酸、ジフェニルプロパントトラカルボン酸、アントラセンテトラカルボン酸、フタロシアニントトラカルボン酸等が例示される。

【0014】本発明に係るモノアミンとしては、以下に例示される脂肪族モノアミン、脂環族モノアミン及び芳

(4)

特開平6-192496

5

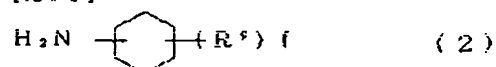
香族モノアミンが挙げられる。

【0015】脂肪族モノアミンとしては、直鎖状又は分岐鎖状の炭素数1～18のアルキル基又は炭素数2～18のアルケニル基を有するモノアミンが挙げられ、具体的には、メチルアミン、エチルアミン、プロピルアミン、イソプロピルアミン、*n*-ブチルアミン、イソブチルアミン、第2ブチルアミン、第3ブチルアミン、*n*-アミルアミン、第3アミルアミン、ヘキシルアミン、ヘプチルアミン、*n*-オクチルアミン、2-エチルヘキシルアミン、第3オクチルアミン、ノニルアミン、デシルアミン、ウンデシルアミン、ドデシルアミン、トリデシルアミン、テトラデシルアミン、ペンタデシルアミン、ヘキサデシルアミン、ヘプタデシルアミン、オクタデシルアミン、オクタデセニルアミン、アリルアミン等が例示される。

【0016】脂環族モノアミンとしては、シクロプロピルアミン、シクロブチルアミン、シクロペンチルアミン、シクロヘキシルアミン、シクロヘプチルアミン、シクロオクチルアミン、シクロドデシルアミン等の他、一般式(2)又は一般式(3)で表される化合物が挙げられる。尚、これらの化合物には種々の異性体があるが、所定の効果を有する限り何れの異性体も適用できる。

【0017】

【化11】



【式中、R⁹は炭素数1～18のアルキル基、炭素数2～18のアルケニル基、炭素数1～6のアルコキシル基、炭素数4～8のシクロアルキル基、フェニル基又はハロゲン原子を表す。fは1～5の整数を示す。】

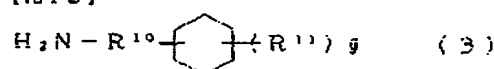
【0018】一般式(2)で表される脂環族モノアミンとしては、メチルシクロヘキシルアミン、エチルシクロヘキシルアミン、プロピルシクロヘキシルアミン、イソプロピルシクロヘキシルアミン、*n*-ブチルシクロヘキシルアミン、第2ブチルシクロヘキシルアミン、第3ブチルシクロヘキシルアミン、*n*-アミルシクロヘキシルアミン、第3アミルシクロヘキシルアミン、ヘキシルシクロヘキシルアミン、ヘプチルシクロヘキシルアミン、*n*-オクチルシクロヘキシルアミン、2-エチルヘキシルシクロヘキシルアミン、第3オクチルシクロヘキシルアミン、ノニルシクロヘキシルアミン、デシルシクロヘキシルアミン、オクタデセニルシクロヘキシルアミン、ジメチルシクロヘキシルアミン、ジエチルシクロヘキシルアミン、ジプロピルシクロヘキシルアミン、ジイソプロピルシクロヘキシルアミン、ジ*n*-ブチルシクロヘキシルアミン、ジ第2ブチルシクロヘキシルアミン、ジ第3ブチルシクロヘキシルアミン、ジ*n*-アミルシクロヘキシルアミン、ジ第3アミルシクロヘキシルアミン、ジヘキシルシクロヘキシルアミン、トリメチルシクロヘキ

6

シルアミン、トリエチルシクロヘキシルアミン、トリプロピルシクロヘキシルアミン、トリイソプロピルシクロヘキシルアミン、トリ*n*-ブチルシクロヘキシルアミン、トリ第2ブチルシクロヘキシルアミン、トリ第3ブチルシクロヘキシルアミン、メトキシシクロヘキシルアミン、ジエトキシシクロヘキシルアミン、ジ*n*-ブトキシシクロヘキシルアミン、ジ第2ブトキシシクロヘキシルアミン、ジ第3ブトキシシクロヘキシルアミン、クロロシクロヘキシルアミン、ジクロロシクロヘキシルアミン、ブロモシクロヘキシルアミン、ジブロモシクロヘキシルアミン等が例示される。

【0019】

【化12】



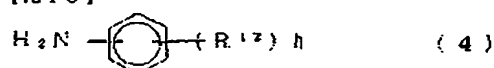
【式中、R¹⁰は炭素数1～4の直鎖状又は分岐鎖状のアルキレン基を表す。R¹¹は一般式(2)のR⁹と同義である。gは0～5の整数を示す。】

【0020】一般式(3)で表される脂環族モノアミンとしては、シクロヘキサメチルアミン、ジメチルシクロヘキサメチルアミン、トリメチルシクロヘキサメチルアミン、 α -シクロヘキシルエチルアミン、 β -シクロヘキシルエチルアミン、 α -シクロヘキシルプロピルアミン、 β -シクロヘキシルプロピルアミン、 γ -シクロヘキシルプロピルアミン、ジメトキシシクロヘキシルエチルアミン、ジクロロシクロヘキサメチルアミン等が例示される。

【0021】芳香族モノアミンとしては、アニリン、ナフチルアミンの他、一般式(4)又は一般式(5)で表される化合物が挙げられる。

【0022】

【化13】



【式中、R¹²は一般式(2)のR⁹と同義である。hは1～5の整数を示す。】

【0023】一般式(4)で表される芳香族モノアミンとしては、メチルアニリン、エチルアニリン、プロピルアニリン、イソプロピルアニリン、*n*-ブチルアニリン、第2ブチルアニリン、第3ブチルアニリン、*n*-アミルアニリン、第3アミルアニリン、ヘキシルアニリン、ヘプチルアニリン、*n*-オクチルアニリン、2-エチルヘキシルアニリン、第3オクチルアニリン、ジメチルアニリン、ジエチルアニリン、ジプロピルアニリン、ジイソプロピルアニリン、ジ*n*-ブチルアニリン、ジ第2ブチルアニリン、ジ第3ブチルアニリン、トリメチルアニリン、トリエチルアニリン、トリプロピルアニリン、アミノステレン、アニシジン、ジメトキシアニリ

(5)

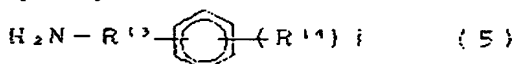
特開平6-192496

7

ン、ジエトキシアニリン、シクロヘキシルアニリン、アミノジフェニル、クロロアニリン、ジクロロアニリン、プロモアニリン、ジプロモアニリン等が例示される。

【0024】

【化14】



【式中、R¹³は一般式(3)のR³と同義である。R¹⁴は一般式(2)のR²と同義である。iは0～5の整数を示す。】

【0025】一般式(5)で表される芳香族モノアミンとしては、ベンジルアミン、ジメチルベンジルアミン、トリメチルベンジルアミン、α-フェニルエチルアミン、β-フェニルエチルアミン、α-フェニルプロピルアミン、β-フェニルプロピルアミン、γ-フェニルプロピルアミン、ジメトキシフェニルエチルアミン、ジクロロベンジルアミン等が例示される。

【0026】本発明に係るアミド系化合物の中でも、特に、1, 2, 3, 4-ブタンテトラカルボン酸(以下「BTC」と略記する。)、TDA、SMSD、トリメシン酸、トリカルバリル酸及び1, 3, 5-ペンタントリカルボン酸からなる群より選ばれるポリカルボン酸又はその酸無水物を酸成分とし、シクロヘキシルアミン、2-メチルシクロヘキシルアミン、3-メチルシクロヘキシルアミン、4-メチルシクロヘキシルアミン及びジメチルシクロヘキシルアミンからなる群より選ばれる脂環族アミンをアミン成分として調製されるアミド系化合物が推奨される。

【0027】本発明で用いられるポリプロピレン系樹脂とは、プロピレンを構成成分としてなる重合体であって、プロピレン単独重合体、プロピレンと他のα-オレフィン類(例えばエチレン、ブテン-1、ペンテン-1、4-メチルペンテン-1、ヘキセン-1等)や酢酸ビニル等とのランダム又はブロック共重合体或いは前記ポリプロピレン樹脂系と少量の熱可塑性樹脂(例えば、高密度ポリエチレン、ポリブテン、ポリ-4-メチルペンテン等)とのブレンドポリマーが例示される。特にプロピレン単独重合体、プロピレン-エチレンブロック共重合体系の樹脂に対して本発明に係るアミド系化合物の添加効果は大きい。

【0028】かかるポリプロピレン系樹脂を製造するために適用される触媒としては、一般に使用されているチーグラー-ナッタ型触媒はもちろん、遷移金属化合物(例えば、三塩化チタン、四塩化チタン等のチタンのハロゲン化物)を塩化マグネシウム等のハロゲン化マグネシウムを主成分とする担体に保持してなる触媒と、アルキルアルミニウム化合物(トリエチルアルミニウム、ジエチルアルミニウムクロリド等)とを組み合わせる触媒系も使用できる。

8

【0029】ポリプロピレン系樹脂成分のメルトフローレート(以下「MFR」と略記する。JIS K 6758-1981)は、その適用する成形方法により適宜選択され、通常、0.1～200g/10分程度、好ましくは0.5～100g/10分程度である。

【0030】本発明に係るアミド系化合物の配合量は、所定の効果が得られる限り特に限定されず適宜選択することができるが、通常、ポリプロピレン系樹脂100重量部に対し0.001～5重量部程度、より好ましくは0.01～2重量部程度である。0.001重量部未満の場合には、所定の改質効果が得られにくく、5重量部を越えて配合した場合には配合量に見合うだけの改質効果が期待できず、実面的でないばかりか、不経済であって、いずれの場合も好ましくない。

【0031】本発明に係る樹脂組成物には、必要に応じて安定剤(エポキシ化合物等)、酸化防止剤(フェノール系化合物、亜リン酸エステル系化合物等)、抗菌剤、紫外線吸収剤(ベンゾフェノン系化合物、ベンゾトリアゾール系化合物等)、熱安定剤、光安定剤(ヒンダードアミン系化合物等)、中和剤、帯電防止剤、アンチブロッキング剤、難燃剤、重金屬不活性剤、滑剤(脂肪酸金属塩)、分散剤、過酸化物(有機過酸化物)、有機・無機の顔料、充填剤(タルク、ハイドロタルサイト、マイカ、ゼオライト、バーライト、珪藻土、炭酸カルシウム、ガラス繊維等)、発泡剤、エラストマー、加工助剤、造粒剤等を本発明の効果を損なわない範囲で添加することができる。

【0032】かくして得られるポリプロピレン樹脂組成物は、成形性に優れ、強靱で、透明性に優れる。

【0033】本発明のポリプロピレン系樹脂組成物は、所定の成分を従来公知の混合装置(ヘンシェルミキサー、リボンブレンダー等)を用いて混合した後、一軸或いは二軸の押出機等で溶融混練して製造され、得られた樹脂組成物は、フィルム、シート、小型容器、注射器、日用雑貨品、自動車部品、コンテナ、家電部品、不織布等の樹脂材料として好適であり、その目的とする製品に応じて射出成形、押出成形、ブロー成形等の各種方法によって成形される。

【0034】

【実施例】以下、実施例及び比較例を掲げ、本発明を詳しく説明する。尚、実施例における結晶化温度、曲げ弾性率は下記の方法に従って測定した。

【0035】樹脂組成物の調製：所定のポリプロピレン系樹脂100重量部に所定量のアミド系化合物を配合し、ヘンシェルミキサーで混合後、20mmφの一軸押出機でペレット化する。

【0036】結晶化温度の測定：上記で得られたペレットをプレス成形機で厚さ0.5mmのシートに成形し、そのシートの結晶化温度をJIS K 7121に準拠して測定する。

(6)

特開平6-192496

9

19

【0037】曲げ弾性率の測定：上記で得られたペレットを射出成形機にかけ、厚さ4mmの試験片を得る。この試験片の曲げ弾性率をJIS K 7203に準拠して測定する。曲げ速度は10mm/分である。

【0038】実施例1～66

プロピレン-エチレンブロックコポリマー粉末(MFR=2g/10分、以下「樹脂1」という。)100重量*

*部に所定のアミド系化合物を0.2重量部添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第1表～第3表に示す。

【0039】比較例1

樹脂1自体の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第3表に示す。

【表1】

第1表

	アミド系化合物	結晶化温度 (℃)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例1	ビフェニルテトラカルボン酸テトラシクロヘキシルアミド	125	11300
実施例2	BTCテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	129	13200
実施例3	BTCテトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	122	10900
実施例4	BTCテトラキス(n-ヘキシルアミド)	119	10900
実施例5	BTCテトラキス(p-トリルイジンアミド)	125	11800
実施例6	BTCテトラアニリド	124	11200
実施例7	BTCテトラシクロヘキサンメチルアミド	128	12200
実施例8	BTCテトラシクロヘキシルアミド	130	12800
実施例9	BTCテトラシクロペンチルアミド	129	12500
実施例10	BTCテトラシクロプロピルアミド	131	11200
実施例11	BTCテトラシクロブチルアミド	128	10700
実施例12	BTCテトラベンジルアミド	125	11300
実施例13	ベンゾフェノンテトラカルボン酸テトラシクロヘキシルアミド	116	10200
実施例14	ジフェニルスルホンテトラカルボン酸テトラシクロヘキシルアミド	117	10200
実施例15	SMDSテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	128	12700
実施例16	SMDSテトラキス(2-トリルイジンアミド)	127	12200
実施例17	SMDSテトラキス(o-トリルイジンアミド)	126	11800
実施例18	SMDSテトラアニリド	128	11900
実施例19	SMDSテトラシクロヘキサンメチルアミド	129	11800
実施例20	SMDSテトラシクロヘキシルアミド	129	13100
実施例21	SMDSテトラシクロペンチルアミド	129	12100
実施例22	SMDSテトラシクロプロピルアミド	131	11200
実施例23	SMDSテトラシクロブチルアミド	128	10600
実施例24	SMDSテトラベンジルアミド	126	11400
実施例25	ビフェニルエーテルテトラカルボン酸テトラシクロヘキシルアミド	120	10200

【表2】

第 2 表

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例 26	ヒロメリット酸デトラシクロヘキシルアミド	127	11300
実施例 27	ヒロメリット酸デトトラベンジルアミド	125	10200
実施例 28	PDAデトラシクロヘキシルアミド	116	10200
実施例 29	TDAデトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	129	12500
実施例 30	TDAデトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	121	10500
実施例 31	TDAデトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	127	11000
実施例 32	TDAデトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	123	10200
実施例 33	TDAデトラキス(4-メチルシクロヘキシルアミド)	126	11700
実施例 34	TDAデトラアニリド	130	12600
実施例 35	TDAデトラシクロヘキシルアミド	131	11000
実施例 36	TDAデトラシクロヘキシルアミド	130	10600
実施例 37	TDAデトラシクロヘキシルアミド	128	12000
実施例 38	TDAデトラベンジルアミド	122	10600
実施例 39	TMEGデトラシクロヘキシルアミド	117	10200
実施例 40	TMTAデトラシクロヘキシルアミド	117	10300
実施例 41	シクロペンタンデトトラカルボン酸デトトラシクロヘキシルアミド	119	10200
実施例 42	2,3,5-トリカルボキシシクロペンチルベンゼンデトトラシクロヘキシルアミド	129	12400
実施例 43	デトラデカンヘンキサルボン酸ヘンキサルアミド	124	10400
実施例 44	トリカルバリル酸トリアニリド	120	10700
実施例 45	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	126	11100
実施例 46	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	123	11400
実施例 47	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	124	11500
実施例 48	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	123	11300
実施例 49	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	125	11200
実施例 50	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリアニリド	127	11200

【表 3】

40

(8)

特開平6-192496

第3表

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例51	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	128	11300
実施例52	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	128	11300
実施例53	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	124	11200
実施例54	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	127	12000
実施例55	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	121	10500
実施例56	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	123	10500
実施例57	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	123	11400
実施例58	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	127	12000
実施例59	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	124	10700
実施例60	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	125	11900
実施例61	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	122	11100
実施例62	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	124	11200
実施例63	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	124	11600
実施例64	トリメシン酸トリシクロヘキシルアミド	122	10200
実施例65	1,3,5-シクロヘキサントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	127	11200
実施例66	1,3,5-シクロヘキサントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	125	10300
比較例1	-	114	10000

【0040】実施例67～74

40

プロピレンホモポリマー粉末 (MFR=14 g/10分、以下「樹脂2」という。) 100重量部に第2表に示すアミド系化合物0.2重量部添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第4表に示す。

【0041】比較例2

樹脂2自体の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第4表に示す。

【表4】

第 4 表

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例67	BTCテトラシクロヘキシルアミド	129	18600
実施例68	BTCテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	130	19000
実施例69	SMSDテトラシクロヘキシルアミド	129	19100
実施例70	SMSDテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	127	18600
実施例71	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	122	17100
実施例72	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	123	17600
実施例73	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	128	17100
実施例74	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	128	17200
比較例 2	-	113	13100

【0042】実施例75～82

プロピレン-エチレンランダムコポリマー粉末(MFR=14g/10分、以下「樹脂3」という。)100重量部に第3表に示すアミド系化合物の、2重量部を添加して調製した樹脂組成物の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得られた結果を第5表に示す。

【0043】比較例3

樹脂3自体の結晶化温度及び曲げ弾性率を測定した。得

(9)

特開平6-192496

16

られた結果を第5表に示す。

【表5】

	アミド系化合物	結晶化温度 (°C)	曲げ弾性率 (Kg/cm ²)
実施例75	BTCテトラシクロヘキシルアミド	113	6900
実施例76	BTCテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	112	7100
実施例77	SMSDテトラシクロヘキシルアミド	112	7000
実施例78	SMSDテトラキス(2-メチルシクロヘキシルアミド)	112	6900
実施例79	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	102	6800
実施例80	トリカルバリル酸トリシクロヘキシルアミド	103	6900
実施例81	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	114	6800
実施例82	1,3,5-ペンタントリカルボン酸トリシクロヘキシルアミド	113	6800
比較例 3	-	94	5500

【0044】

【発明の効果】ポリプロピレン樹脂に対し、本発明に係るアミド系化合物を配合することにより、結晶化温度が高く、且つ曲げ弾性率が大幅に改善されたポリプロピレン系樹脂組成物を得ることができる。

(10)

特開平6-192496

フロントページの続き

(72)発明者 定光 清
京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新
日本理化学株式会社内

(72)発明者 川原 康行
京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新
日本理化学株式会社内

(72)発明者 梁 吉孝
京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新
日本理化学株式会社内

(72)発明者 北川 宏
京都府京都市伏見区葎島矢倉町13番地 新
日本理化学株式会社内

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS

☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

☒ FADED TEXT OR DRAWING

☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

☐ SKEWED/SLANTED IMAGES

☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

☐ GRAY SCALE DOCUMENTS

☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.